

特別講演 1 森は海の恋人

人と自然との繋がりについて

宮城県気仙沼市 NPO 法人



森は海の恋人副理事長 畠山信先生

はじめに

「森は海の恋人」という言葉は平成元年（1989年）に生まれました。漁師が山に木を植える活動（森は海の恋人運動）として全国に広まり、現在では小・中・高校の教科書に掲載され、また、大学の入試問題としても扱われていますが、事の発端や背景、経過についてはあまり知られていません。

三陸気仙沼の牡蠣漁師が始めた「森は海の恋人運動」の推移を整理し、その手法や広がり方を考察することから、持続可能な地域、国の在り方を皆さんと共に考えたいと思います。

森は海の恋人の提唱者である父（畠山重篤）の生業は牡蠣やホタテの養殖業になります。1970年代から1980年代にかけて、気仙沼湾では赤潮と呼ばれる現象が頻発し牡蠣養殖業は危機を迎えることになります。同時期、気仙沼湾に流れ込む二級河川（大川）に多目的ダムが建設されようとしていました。大型の公共工事は疲弊する地方都市の経済を支えるとされていた高度経済成長期終盤。一方で、自然破壊や環境汚染が問題視され、環境庁（現環境省）の在り方も問われ、同時に経済最優先の土木的な公共事業も問題視される時代でした。

1989年（平成元年）、大川の源流部にある室根山に大漁旗が掲げられました。第1回森は海の恋人植樹祭の開催です。植樹祭には漁師のほか、活動に賛同下さった室根村の農家の皆さんも集い記念植樹を行いました。県境を越え、漁師が山に木を植えるという一見不可思議な行為はマスメディアに取り上げられ、多くの人々の興味を引き付けることになり、ダム建設に対して直接的ではない反対運動としての側面が生まれました。

また、大川流域の子どもたちを気仙沼湾の牡蠣養殖場へ招き、森と海との繋がりを伝える体験学習をはじめたところ、子どもだけでなく企業等からも体験学習の申し入れが増加していきます。体験学習の効果は、海に居ながら森を考え、その繋がり大切さを知るきっかけにもなりました。その結果、関係する市町村の住民からダム建設推進に関して異論の声が上がり、ダムの建設は中止になったのです。

2011年3月11日、未曾有の自然災害は三陸沿岸部に甚大な被害をもたらしました。牡蠣養殖場も跡形もなく破壊されました。世界中から多くのご支援のもと、復旧・復興作業が進められる中で、次なる災害への備えとして国が示した一つが高さ平均的な高さ約10mの防潮堤の建設でした。岩手、宮城、福島で約600箇所防潮堤の建設は地域ごと

の合意形成が求められ、宮城県と岩手県で各1ヵ所を除いて巨大なコンクリートの防潮堤が沿岸部に建設されています。

震災の影響は地盤の沈降等、自然環境も大きく変化させることになりました。沿岸部の耕作放棄地等は塩性湿地へと姿を変え、多様な生物の育成空間に生まれ変わろうとしていました。しかし、災害復旧工事の名の下でそのほとんどが埋め立てられ、現在はその多くが荒地と化していますが、唯一、気仙沼市舞根地区だけは震災直後の状態のまま塩性湿地として保全されています。

30年以上にわたる植樹活動と環境教育、被災後の自然保護活動と地域経済の循環は持続可能な地域づくりの手法の一つと言えます。それを可能としたのは住民や関係者の合意形成です。近年、SNSをはじめとする対外的な情報発信は容易なものとなっていますが、現実的に持続可能な社会を構築するための手法は、人々の合意形成がカギの一つでもあります。

略歴 畠山 信 (はたけやま まこと)

1978年気仙沼市生まれ。地元の高校を卒業後、C.W.ニコルのもとで生態学、分類学、生物調査法等を学ぶ。その後、鹿児島県屋久島を中心に環境教育、生物調査に携わる。帰郷し、牡蠣漁師として生活しながら2009年にNPO法人森は海の恋人を設立。2011年3月、東日本大震災で被災。復旧・復興活動に奔走する傍ら、震災後の自然環境を活かした持続可能な地域づくりを展開している。

主な著書他

「防潮堤無し」を選択した舞根地区 -自然環境保護を目的とした災害復旧工事-
出版社：岩波書店

季刊誌：環境と公害 49-4

防潮堤の建設を拒み、塩性湿地を復元 出版社：建築ジャーナル

雑誌：月刊誌建築ジャーナル No. 1314

HP：<https://mori-umi.org/>

HP：<https://pride.kesenuma-kanko.jp/slow-city/activities-01/>

HP：<http://jola-award.jp/winner/609/>

HP：<https://econavi.eic.or.jp/ecorepo/learn/407>

HP：<https://www.tfm.co.jp/forest/index.php?itemid=159310>

HP：<https://nihonmono.jp/article/12195/>